

理事長所信

常滑青年会議所 2019年度

第58代理事長 水野 裕仁

【はじめに】

1962年常滑青年会議所は、「我々は現在の社会を我々青年が中心となり青年らしい方法で、より一層明るい社会にしようという理想」のもと設立されました。

(常滑青年会議所設立趣意書抜粋)

自己修練、社会への奉仕ならびに相互の親睦を目的としております。

次に、職業を通じて正しい経済の発展に尽くすことが上げられております。

このテンポの速い時代に即応し、明るい新しいまちづくりを推進していくことが我々青年の使命であると考えJC活動を通じ、一致協力して我が愛する

常滑市の発展に最善を尽くしたいと思っております。

この趣旨のもと57年間、諸先輩方の英知と勇気と情熱溢れる活動により、常滑青年会議所活動が継承されています。今、こうして我々が常滑青年会議所メンバーとして活動ができていくこと、そして今日の礎を築いてこられた諸先輩方に感謝致します。

また、2012年には「常滑JC充愛ビジョン」を掲げ、この先10年を目標に、今後の常滑青年会議所活動がどうあるべきか宣言しました。7年目を迎える本年も、今までの活動を振り返りながら、今後の3年を見据え、着実に宣言通り遂行されているか確認し、一步ずつ前進していきたいと考えます。

【己に打ち克つ】

10代の頃の若さがなくなったためか、いろいろな経験を積んだためか、「人は一人では生きていけない」とつくづく思うことがあります。これは、今までの人生で多くの方々に助けていただいた経験がそう考えさせるのではないのでしょうか。

誰しもが、自分一人で生きているわけではない。
周りには家族がいて、仲間がいて、同志がいる。
そんな共存する世界に我々は生かされている。

では「仲間」とは何なのだろうか。

「真の仲間」とは、

愛をもって相手と接することのできる関係性。であると私は考えます。

親は、我が子に何の見返りも求めず無償の愛を注ぎ、我が子が他人から認められるようなことがあれば存分に褒め、逆に道理に反することに対しては叱り、時には怒ったりもします。子どもが憎くて怒ることはありません。必ず、子どものために想って怒るのです。

そんな関係が、親子のみではなく、私たち同志の間でもできたら、どんな世界になるのでしょうか？

我々は血縁関係があるわけではありません。しかし、相手がいて私がいる。その状況の中で同じ時間を過ごすならば、誰にでも誇れる最高の時間としたい。

そのためには、相手のためであれば、厳しいことや言いにくいことも伝えなければならない。たとえ、自身ができていなくとも、相手のためになるのであれば、勇気を出し向き合わなければならない。その上で、自身を見直すきっかけとし好循環をつくる。

全ては「相手のため」に考え行動する。自身の甘さが出る時もあるかもしれませんが。そんな時、今の言動が本当に「己に打ち克つ」ことができているのか？常に意識し行動していきたい。

このような関係性の仲間を増やし、より良いまちづくりが生み出される一助としていきたいと考えます。

【会員拡大】

JC活動は未来への投資である、会員拡大はJC活動の一部であると考えます。

成果がすぐに表れることが望ましいですが、そんな場面に出会うことは少ないように思います。多くの努力の上、ようやく実ることの方が随分と多いように思います。これはJC活動も同じで、会員拡大にも当てはまると思います。しかしすぐに結果が出ないと、何も行動しなければ成果はありません。会員拡大は数字で結果が出ることも意識し常に最善の選択を行っていきたい。

また、常滑青年会議所が設立された想いを継承し、次の世代へ繋げることも我々の使命であると考えます。

ここ数年、常滑青年会議所メンバーの卒業生の割合は多く、会員拡大ができなければ、想

い描く活動もできなくなる可能性もあります。たとえ、卒業生と同等の人数拡大を行ったとしても、人数的には維持するだけです。幅広い活動を行っていくため、新しいメンバーを迎え新しい発想をもってまちづくりを行っていくためにも、その倍の数の拡大が必要であると考えます。

【地域の発展・人財育成】

常滑市の発展とは何か？直接的な働きかけのみではなく、まちの人々、そして我々メンバーの成長も常滑市の発展に繋がると考えます。

事業を行うのは我々メンバーかもしれませんが、実際に常滑のまちをつくるのは市民一人一人であり、「明るい新しいまちづくり」を示すことが我々の責任であると考えます。魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教える。

まちづくりの成果として、すぐに実ることが望ましいですが、その事業を通じて今後の未来に良い影響を与えることができるのであれば、私は成功であると考えます。

LOMの現状は、色々なところに影響を与えます。メンバーが目標に向かい、一所懸命に果敢に取り組んでいるLOMは輝いて見えます。これは他のLOMメンバーから見ても分かると思います。また、まちの方々から見ても同じように映るのではないのでしょうか。我々はまちを牽引するという想いを常に意識し、常に見られていることを理解し立ち振る舞いをすべきです。短期的な目的のみでなく、長期的な計画を持ち続け、切磋琢磨していきたいと考えます。

「まちづくり」を我々の責任として、困難にも屈しない強い意気をもって活動を行うこと、そして物事の本質をしっかりと捉え、身につけ継承していく必要があると考えます。

英知を一層磨き上げると共に、常に改善・革新への意志をもち続けていきたい。

【真の仲間】

育ってきた環境、今までに培ってきた感覚が違う者同士が集まる青年会議所、だからこそ相手から学ぶことが多くあると思います。反面、衝突も当然あると思います。無い方が本気で行っていないのではないかとさえ思ってしまう。

衝突を恐れ何も行動しないことは、多くを考えることなく時間が過ぎていく。それは、時間を無駄に使用していることかもしれません。我々は何のために集まっているのだろうか？

人は一人では生きてはいけないけれど、一人で楽しむ術や面と向かって対話なくして交流

できる場も多くなってきています。

便利な世の中ですが、その中に本当に仲間と呼べる関係性を築くことはできるのでしょうか？

そして今、真の仲間と呼べる人は周りに何人いるのでしょうか？

仲間となるためには、時間は必ず必要であると考えます。また、その中でも腹を割って話すこと、相手を否定せず受け入れる、想いをぶつけることで必ず伝わります。本音で語り合うことが、今の時代に必要なことだと考えます。

また、JCを卒業してから何が残るのか？ 沢山の経験と沢山の仲間を得ることができたならば、必ず明るい社会の一助になっていると確信しています。

【想いを育む青少年】

「少年よ、大志を抱け」という言葉があります。これは、若者は大きな志をもつことによって、大きな夢が達成できるという励ましの言葉です。

志や目指すべき事柄がなければ、糸の切れた凧のように、自身でコントロールができなくなります。

それほど志は必要不可欠であると考えます。皆それぞれ目標や、なりたい自分があると思います。まだ分かっていないだけかもしれませんが、必ずあるはずです。そんななりたい自分を一緒に見出すことも大切だと考えます。

そのためには、自信をつけることが必要だと考えます。小さくとも成功した体験を積み重ねることにより、やがて大きな自信となると考えます。

【組織と役割】

JCは単年度制で毎年違う役割を担うこととなります。これは、他の団体と異なる独自の制度だと思えます。毎年、違った立場からJC活動に参画することは新たな発見が非常に多く、多角的に物事を観察できる素晴らしいことだと思えます。だからこそ、成長が早いのだと考えます。

常にLOMの運営についてとことん考えることにより、新しいことにもチャレンジしつつ、57年間継承されてきた経験を生かす。LOMの要として、他の委員長をも引率する勢いで邁進していきましょう。

【結びに】

私は、経験こそ財産であると考えます。

2010年に常滑青年会議所へ入会し、今までに色々な役職を経験させていただきました。楽しいことばかりではありません。時には辛い時期もありましたが、そんな時にはいつもメンバーが近くに居て、力を貸してもらい乗り越えることが出来ました。

常滑青年会議所に入会することを決めた瞬間から、無限の可能性が広がっているように思います。

また、何かに迷うことも多々あると思いますが、迷ったらまずは行動してみる勇氣も必要であると思います。失敗することもあるかもしれませんが、何もせずに後悔するよりは、行動を起こし失敗の方が学びになると考えます。

目先のことだけに囚われず、もっと先の未来も見据え行動していきたいと思えます。

一年間理事長職を預かる身としまして、大きな責任がありますが、「己に打ち克つ ～魅力的な組織であるために～」を常に意識し少しでも前進できる年とします。

今まで多くの経験をさせていただいたこと、全力でお返ししていきます。一年間どうぞ宜しくお願い致します。